

2022年[令和4年]

3月12日[土]

大安

※三角測量の始まり 古来のアーチ
定し長さを測り、そこを底辺に三角形
を次々に展開させていくことでなされ
た。最初の三角測量は、現在の相模原
市と座間市に設置された二つのポイント
を結ぶ相模野基線を底辺に、鳶尾山
と横浜市緑区の高尾山(昨年2月13日
付で紹介)を結んだものである(地図
参照)。

三角測量始まりの山頂



①中津川越しに見る鳶尾山(矢印)②一等三角点の標石(中央の「+」印のついた石柱)

丹沢山地東部の前衛に、修驗の山として知られる八菅山から連なる低い山並みが南北に延びている。ドングリの背比べの中での最高峰が鳶尾山だ。山頂を示す「トン」に境界を示す「ビョウ(標)」が組まれたのが由来とされ、トンビョウサンとも呼ばれる。鳶はそれへの当て字で、いずれにせよ鳥のトンビとは関係がない。ところが一見平凡なこの低山が、周辺の

とびおさん No.088 鳶尾山 標高 234メートル

地名その他に絶大な影響を及ぼした。南麓には「鳶尾」の地名が当てられて広大な鳶尾団地が展開し、小田急線本厚木駅からのバスは鳶尾団地行き。公園や小学校名にまでなっている。まさに一帯のお山の大将といった観がある。

山頂一帯は桜の名所で、緩やかな斜面に多数が植えられ、開花期は満山花で彩られる。地元有志の尽力によるたまものだ。また、低山ながらも丹沢山地と相模平野の接点に位置するがゆえに展望も広大で、下界が一望、しかも近い。

この眺めの良さが目を付けられ、地図作り測量の基準となる三角点、わけても最も格の高い一等三角点が置かれている。しかも全国の一等三角点でも格別の存在だ。1882(明治15)年に、眼下の平野の2カ所と結んで最初の三角測量が行われたのである。測量記念碑を建ててもいいほどの重要なポイントであり、この一事だけをもってしても名山たる資格は十分だろう。

満開の桜に浮かれるのも一興だが、山頂の中央にたたずむ三角点にも目を留めてみたい。そのまま下界に視線を移しつつ、国づくりに燃えていた明治期の測量官の気概を感じ取ってみてはいかがだろう。



おすすめコース 軽ハイク
クラス
本厚木駅(小田急線)《バス》上
荻野一七尾山一八菅神社一鳶尾山一
鳶尾団地《バス》本厚木駅
【所要約1時間半】



鳶尾山だけが目当てなら、まつか
げ台バス停から歩くとよい。これな
ら散策クラス。



桜の季節の山頂